

## 2019年度以降に1年生から入学する方向け

## 2021年度以降に3年生から編入学する方向け

平成31年2月19日 全学教育改革本部会議 策定  
平成31年3月19日 第317回教育研究評議会 承認  
令和3年10月19日 第369回教育研究評議会 改定  
(全学カリキュラムポリシーの改定)

### 福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「解のない問い」に挑む態度などを身につけます。

### 福島大学学生に期待する姿勢および能力

福島大学は、上記の教育目標を達成するために、以下の姿勢及び能力を身につけさせると同時に、他者と協働して実践できる自立的な市民となることを期待して教育に取り組めます。

#### 1. 最新の専門知識及び技術(専門知識・技術)

- ①資料の収集・分析・統合、語学、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なアカデミック・スキル
- ②最新の学問的知識や技術を確実に身につけ、現代社会における自らの専門領域の役割を考え、知識や技術を改善したり更新したりする態度

#### 2. 本質を見極めるための教養と学際性(教養と学際性)

- ①物事の本質を見極めるための探究的態度と、自らの専門性や技術を対象化・客観化させるための幅広い教養の定着
- ②他領域の学問を学ぶことで自らの専門性を拡張させ、物事を総合的に、かつ俯瞰的に見るための知識のネットワーク構築

#### 3. 協働的な問題探究(社会的スキル)

- ①日常生活や国際社会に対する問題意識や、自らの専門性を生かして問題を発見し、問題解決に取り組むためのスキル
- ②高度なリーダーシップやフォロワーシップなどのグループワークのスキルや、他者との協働による問題探究の実践

#### 4. 社会の改善につなげる創造性(認知的スキル)

- ①事実にもとづく客観的な社会の把握、および多面的にアプローチするためのデータ解析やフィールドワークなど様々なツールの駆使
- ②社会と自身の関係を問い直し、常識にとらわれない独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れないチャレンジ精神

#### 5. 市民としての主体的態度(態度や価値観)

- ①東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地に学ぶ者として、被災の概要を知り、被災地に寄り添い共感的にアプローチする態度
- ②地域の抱える課題を社会が直面する21世紀的課題としてとらえなおし、主体的に探究しようとする態度

## 全学カリキュラム・ポリシー

福島大学では、〈期待する姿勢および能力〉に示される能力を身につけさせるために、カリキュラムを「基盤教育」「専門教育」「自由選択」の3つに区分し、相互に関連付けて有機的に学ぶことをめざします。それぞれの区分の内容は以下の通りです。

### 1. 基盤教育

大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけるために基盤教育を置きます。

#### (ア) 接続領域

高校までの学びを大学での学修に結びつけ、基礎教育と専門教育、学問と現実社会を接続させるための学修領域です。「スタートアップセミナー」「キャリア形成論」「健康運動科学実習」「英語」「英語以外の外国語」などの科目を内容とします。

#### (イ) 教養領域

民主的な社会を築く上で必要な幅広い教養をはじめ、高度に技術が発達した現代社会を主体的に生きていくために必要な諸スキルを身につけるための学修領域です。「学術基礎科目」「キャリア設計科目」「健康・運動科目」「外国語科目」「情報科目」に関連する科目を内容とします。

#### (ウ) 問題探究領域

地域課題や世界的課題を自分事として位置づけ、解決に向けて追求する方法や態度を身につけるための学修領域です。諸問題の実像を学ぶ「問題探究科目」、学生が自主的に集団を組織して学修する「自主学修プログラム」、基礎クラスごとに問題解決学習を展開する「問題探究セミナー」の各領域を内容とします。

### 2. 専門教育

基礎・基本科目の履修を重視しつつ、各学類・コースの教育目的、人材育成の目的を達成するために、専門的な知識や技術を身につける多様で体系的なカリキュラムが準備されています。専門領域の担い手となるための学生主体で実践的な学修の機会が数多く準備されており、問題解決能力を身につけ、自身や社会に変革をもたらすための実践的で深い知識や技術を身につけます。

また後半は、基盤教育も含めた大学教育の集大成として「卒業研究」関連科目が設定されており、卒業研究をまとめ上げ、学士の授与について審査されます。

### 3. 自由選択

基盤教育と学類専門科目の他に、学生のより幅広い自由な学びを保证するために自由選択を設けています。学類ごとに単位数の設定は異なりますが、基盤教育科目でも学類専門教育科目でも、あるいは他学類の専門教育科目からでも学生の自由な選択にもとづいて履修することによって、一人ひとりに必要な力を育成します。

### 4. 全学特修領域

今日極めて重要となっている「グローバルな思考力」「地域での実践力」を身につけるためのプログラム群で、希望する学生は学類横断で履修することができます。

#### (ア) グローバル特修プログラム

語学グレードアッププログラム、グローバル教養科目、国際交流、海外留学などの機会を提供する、グローバル化に対応したプログラムです。

#### (イ) 地域実践特修プログラム

「ふくしま未来学」を中心とし、地域課題を学ぶとともに、フィールドワークなどを通して、企画力や実践力を身につけるプログラムです。

### 5. Cap制

本学では教育の質を保证するために、Cap制度(単位制度の実質化と質を伴った学修時間の確保)を導入し、 Semester毎の履修登録単位の上限を定めています。

### 6. 成績評価の方針

#### (成績)

成績は、下表の通りS、A、B、C、及びFの5段階をもって表し、S、A、B、及びCを合格、Fを不合格とします。また、学修成果を可視化する方策のひとつとしてGPA制度を用います。

評語	学修成果	評点	GP
S	単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果をあげた	90～100	4
A	単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80～89	3
B	単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた	70～79	2
C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60～69	1
F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	～59	0

#### (評価の方法)

成績は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。各授業科目では、カリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに当該科目において身につけさせる諸能力を示す「単位認定基準」及びレポートや最終試験、実技・実演、作品等といった当該科目の「成績評価の方法」を明記します。なお、成績評価において出席を加点要素にすることはできません。

その他、学生は、学修活動や学修成果を記録していく「Lポートフォリオ」を活用して、ディプロマ・ポリシーに基づいた学修目標の設定と自己評価を行います。

#### (成績の分布)

科目における最高評価(S)の取得者が全体の15%以内となる等、成績の分布がある程度バランスの取れたものになるよう努めます。科目の性質によっては極端な偏りが生じることもやむを得ませんが、その場合、そのような分布になる理由について適切に説明できることが求められます。

#### (点検と改善)

本学では、以上のような方針に基づき、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた諸能力を身に付けているかを評価します。

成績について、その分布状況を前期と後期に1回ずつ学内に公開するとともに、年に1回点検する機会を設けます。また、入学から卒業後までの各種アンケート等を通じて学生の学修成果を分析します。

これらの成績評価、点検・分析結果を教育内容および教育方法等、教育改善につなげます。

#### 7. その他

本学では学生の主体的・自治的活動を重視しており、多くのサークル活動やボランティア活動、インターンシップ、大学での学びを拡張するプロジェクトなどの活動が準備されています。こうした活動にも積極的に参加し、社会人としての資質を身につけることが期待されます。